

戦国「伊賀衆」の活躍

市史編さんだより(12)

戦国時代といえは、武田信玄や上杉謙信、あるいは織田信長や豊臣秀吉といった英雄が登場しますが、同じ時代の伊賀の人々はどうのような活躍をしていたのだろうと思ひ巡らすことがあります。今回は、戦国時代の奈良に居た僧侶の日記や武將の書状などの資料に「伊賀衆」として登場する彼らの活躍ぶりを紹介したいと思います。

「伊賀衆」についての記録は、戦国時代の幕開けとなった応仁・文明の乱(1467～1477)から登場します。文明2年(1470)6月、西軍の畠山方に味方して和歌山県の根来寺まで出陣するのをはじめ、同17年(1485)10月には、京都府南部の御厨子城を「伊賀衆」が畠山方として守備していることが描かれています。その後も永禄4年(1561)に奈良県橿原市にあった十市城の攻撃に参加していることや、元亀4年(1573)に織田信長の家臣柴田勝家らに従い近江(滋賀県)の戦国大名浅井氏の居城を攻めた記録もあります。

このように、伊賀衆は周辺各地の大名に従軍して京都府や奈良・滋賀・和歌山の各県へ出陣し活躍していたことがうかがえます。また、こうした活躍とともに得意とする戦法が記されることもあります。

例えば、天文10年(1541)に京都府笠置町の笠置城を攻撃した時の記録には「今朝伊賀衆笠置城忍ヒ入テ少々坊舎放火」とあり

り、密かに忍び入り火を放つ忍者を髭髷とさせる様子が記されています。また、天正8年(1580)に奈良県の五條市内の城を攻撃した際には、「夜中に伊賀衆忍び入候処」とあります。さらに天正10年(1582)の伊賀乱の時、織田氏に従軍した小川新九郎という尾張の武士の記録に、「内々伊賀の者ハ、しのひ(忍)夜うち(夜討ち)上手二候へは」とあります。この記述から、戦国時代の終わりごろには、夜襲や密かに侵入することが伊賀衆の得意な戦法として広く知れ渡っていたことがわかります。

幾多の戦いを経て蓄積された戦の技術が忍者「伊賀者」を成立させ、江戸時代の忍術書「万川集海」などへと伝えられていったのでしょう。

なお、古文書などの資料に関する情報がありましたら、左記までご連絡をお願いします。本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



▲「伊賀衆が御厨子城を守備することを示した絵図」『大乘院寺社雑事記』より

証明書自動交付機を利用するには

住基カードをお持ちの方で多目的利用申請をされている方は、時間外や休日でも自動交付機を使って証明書が取得できます。

証明書の広域交付サービスには、住民票の写しと印鑑登録証明書の2種類があり、希望により選ぶことができます。申請するときにご利用するサービスごとに4ケタの暗証番号を設定していただきます。多目的利用の申請は本庁住民課のみで受け付けています。

申請時に必要なものは、①住基カード多目的利用申請書②本人確認書類(顔写真なしの住基カードをお持ちの方)住基カード・運転免許証・パスポートなど③住基カー

ド④認印⑤印鑑登録証(印鑑登録されている方)です。

住基カードをお持ちでない方は、本庁または各支所住民課で住基カード交付申請をしてください。住基カードには、写真付きカードと写真なしカードの2種類があり、希望するカードを選択できます。住基カード交付手数料は通常500円ですが、平成23年3月31日まで無料です。

さらに便利になった住基カードをぜひご利用ください。

【問い合わせ】

本庁住民課 22-9645



市の花
ササユリ



市の木
アカマツ



市の鳥
キジ

平成21年3月1日 発行/伊賀市 編集/企画振興部広聴広報課
〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地
TEL 22・9696 FAX 22・9697
http://www.city.iga.lg.jp/